

あとから来る者のために
坂村 真良

あとから来る者のために
田畑を耕し
種を用意しておくのだ
山を
川を
海を
きれいにしておくのだ
ああ
ああから来る者のために
苦勞をし
我慢をし
みなそれぞれの力を傾けるのだ
あとからあとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
みなそれぞれ自分ができる
なにかをしてゆくののだ

令和7年 第1回 EM技術セミナー

U-net 会員対象の令和7年第1回EM技術セミナーが1月17日にオンラインで開催されました。今回は、5名の会員の方々に発表して頂きました。とても参考になり元気が出る発表でした。発表内容の概要をご紹介します(後日配信するダイジェスト版動画もどうぞご視聴ください)。

「横浜EMウェルネス構想 “EMユニバーサルビレッジ横浜”」

横浜EMウェルネス構想有志の会 会長 杉本一郎

横浜EMウェルネス構想有志の会の代表をやっております。杉本一郎です。今回は横浜EMユニバーサルビレッジ構想の進捗状況をご説明させていただきます。

私たちの目標は、比嘉先生から教えていただいた高い次元の医療、つまり病気にさせない医療を、この横浜で展開する事です。イメージとしては、微生物と共存することで環境と皆を健康に持っていくことを目標にしています。タイムラインとして2030年の達成を目標に5段階のステップを設けて進めています。現在、第4段階までは少しずつですが、進んできております。第1段階のEMメディカルプロジェクトについては、もともと最初から横浜で診療所を立ち上げていますので、ほぼ完了に近いところまで来ています。

現在、一番力を入れているところは第2段階のEM農業とショッププロジェクトです。EMを使った自然農法の習得、医食同源、EM野菜の販売を目指しています。まだ野菜の販売というところまでは実施できていませんが、子ども食堂への野菜の提供などを進めています。EM自然農法で野菜を栽培している畑では、農作業を行っている傍ら、集まった仲間がボカシ作り、EMグラビトン炭で整流ブロックを作成しています。皆さん、非常に優秀な仲間で、自主的にあちこち勉強に行かれて、学んできたことを畑に取り入れています。畑で収穫してきた野菜はみんなでシェアしたり、畑を貸して下さっている大家さんや、駐車場貸して下さっている診療所、内科や薬局の皆さんへお裾分けしたりしています。

また、畑の作付け計画など、設計や作業も全部自主的に行ってくれています。最近では、ビニールマルチをやめて草マルチにしようということで、積極的に有志の会の会員が落ち葉を集めてきては撒いてと作業をしてくれています。素人農業をみんなでいろんな事を試しながら、楽しんで行っています。

第4段階では、EM生活、EM教育、予防医学の教育などの講演活動を実施しており、有志のメンバー同士の教育活動、量子物理学の勉強会などを行っています。EMの凄さをより知ろうということで、O-リングの勉強会も定期的に行っています。風間祐二先生が診療所に毎月来てくださっていますので、O-リング講習会を行っています。また、これとは別に、毎年 O-リング合宿という事をやっています。新潟の片山修先生や、長野の平林信夫先生と一緒に、学ぶ機会を作っています。合宿では、毎回、片山先生が資料を作ってくださいっていて、特にこの中で面白かったのは、最近問題になっているPFASという化学物質に対してもEMを活用するというお話をされていました。今年は9月に長野県で合宿を開催する予定になっています。



さらに、毎年恒例になっている味噌づくりですが、横浜のうかい亭協力によりサロンを借りて、EMで栽培された大豆、糶、ていだの生塩などを使って味噌作りをしています。味噌づくりは材料もいいし、環境もいいし、いい仲間と一緒に作っているの、いいお味噌が作れるということで、リピーターになる方が多い集まりになっています。今年は2月16日に開催予定です。



映画「蘇生」の監督である白鳥監督の活動、地球蘇生プロジェクトにも協力していますので、映画の上映会や白鳥監督との講演会なども、去年は何回か企画しました。今年は4月に町田で監督と一緒に上映会、講演会を企画しています。こういった講演会の後にオンラインで講習会も開くのですが、これが毎回好評でいつも80人ぐらい参加者がいて、その中でEMの話もいっぱいさせてもらっている状態です。EMを学ぶ中で最近では、量子力学についても知識を持っていたということで、植村加奈子さんを講師に迎えて、去年は5回勉強会をしました。今年も2月に植村さんを講師に招いて、比嘉先生のセオリーをもっと理解するための宇宙学、という勉強会を企画する予定です。また、つながる健康サークルからの依頼でサークルの会長に就任させていただいたので、つながる健康サークルと横浜EMウエルネス構想有志の会とのコラボレーションで、いろんな活動を一緒に企画しています。昨年もサークルで講演会やオンライン座談会などを行っています。今年もサークルの予防医学アドバイザーになっていただくと、特典でうちの診療所の脳ドッグがついてくるという企画や、腸内細菌検査などもやってみよう計画しています。

脳ドッグに関連しては、比嘉先生が常々、携帯の電磁波やMRIの電磁波などにEMを使うと治療器になると仰っていますが、これがなぜなのか、今までよく分かりませんでした。NHKスペシャルで放送された意識が僕らのDNAのスイッチを入れる、という特集が行われているのを見て思いました。その特集では、僕らの60億ぐらいあるDNAのうち98%は何やっているか分かってないゴミ扱いだったのですが、これまでゴミと言われているDNAの中にこそ、才能や能力を秘めたDNA、遺伝子があるということが分かってきています。この秘めたDNAのスイッチをONにするエネルギーが、白鳥監督の「祈り」という映画にもあるように意識だったり、MRIの周波数だったり、携帯の電磁波だったり、あるいは音波だったりするという事がだんだん分かってきています。そういういい周波数を当てると、僕らの遺伝子の中で眠っていたものが共振作用によって蘇ってきて、すごい力を発揮する、そういう考え方がエピジェネティクス医学です。

僕も一生懸命勉強している所ですが、エピジェネティクスというのは、いい遺伝子だけを発現するわけではなくて、悪い遺伝子も発現させてしまう事があるのですが、EMを組み合わせると悪い遺伝子が発現するのを抑え込みながら、悪いエネルギーをプラスのエネルギーに転換してくれる現象が起こります。EMとエピジェネティクスを組み合わせることで、健康革命がおこると考えています。この言葉も僕が考えたのではなくて、AIに問い合わせたら、このような答えを出してきました。EM技術×エピジェネティクス＝健康革命！なるほどと僕は実感しました。比嘉先生の仰っているように、エピジェネティクスの考えると未来のMRIは診断だけじゃなくて健康を整え、治療ツールになると、実はこの答えもAIが出してきました。本来はMRIも無害といわれていますが、O-リングでチェックすると普通はマイナスになるわけですが、うちの診療所のMRIはEMで整流しているので、O-リングでプラスになるこの現象も、いいエネルギーを体に浴びせることで、本来眠っているすごい遺伝子が目覚めてきていると思っています。

現在、横浜EMウエルネス有志の会では、ホームページが完成しまして会員募集中です。広報活動をするより、私たちの会を探してきてくれる方がいいなということで、大々的に募集はしていませんが、参加希望の方がポツポツと出てきてくれています。また、僕らの考え方に共感してくれている企業さんもある状況です。今後は、つながる健康サークルとも連携し、人々の健康維持のために、ワークショップ活動を展開していきたいと思っています。また、いつも協力してくださっている、うかいグループさんと子供たちを集めた食育活動や、現在、子ども食堂に野菜を提供しているだけですが、その関係者も含めた予防医学活動もやっていきたいと思っています。さらに、せっかくEMを活用して畑をやっていますので、畑に行くだけでもデジタルデトックス、アーシングができる場を設けて、皆さんの健康管理に役立てていきたいと思っています。僕らの目標は微生物と共存して、比嘉先生が目指す病気にさせない医療を実現することになりますので、今後ともU-net 皆様のご協力をぜひよろしくお願いいたします。

横浜EMウェルネス

構想有志の会

Yokohama EM Wellness
Concept Volunteer Group

当会はいかなる政治、宗教団体
とは関係のない、自由な一般
市民による非営利団体です

新規入会

会員ログイン



会員募集中



2025 Healthy Life!

健康に関わる、食、善玉菌(EM)技術、
心と身体のあり方などなど、あらゆる分野の
健康講座を開催。5年間で約200回の講座実績
があり、ますます知恵が蓄積し、
受講生の方も年々レベルアップ🌸

発酵
食と環境
善玉菌

健康
予防医学

健康仲間と
つながる

心 考え方
癒やし

つながる健康サークル

2024年から杉本先生が会長に就任し、横浜ウェルネス構想と連携して活動しています。
2025年の身体と地球の予防医学アドバイザーの特典は、
なんと杉本先生の脳ドックも選べます！
更にインストラクター講座も受講し、学んで伝えていく“つながり”を育てませんか？

身体と地球の予防医学アドバイザー 選べる特典！杉本先生脳ドック or 腸内細菌検査

お申し込みはこちら→

◆お友達ご紹介
◆アドバイザー&インストラクター
ダブル受講
EM新米(玄米)
1kgプレゼント!

埼玉県さいたま市見沼区
にて、EM畑の見学
・体験が可能です！
お近くの方、関東の方、
ぜひお問い合わせください

お問い合わせはメールアドレスへ
sustainable.peace.world@gmail.com→

つながる健康サークル
←Facebookページ

つながる
健康
サークル

「未来子育て環境を創造するグラビトン農法と、遊び・食育・共育の親子青空保育 きりんガーデン」

一般社団法人 MOMO CO-CREATION 代表 土居桃子

「親子青空保育園は、実家より快適」—大阪出身の3人の子を持つママの言葉が、私たちの活動の本質を表しています。親元から遠く離れ、頼れる身内がない方々、不登校や発達障がいのお子さんを持つ親御さん、常に子どもから目が離せず、ゆっくりお茶を飲む余裕もない方々、そんな現代社会の生きづらさを抱える親子たちの癒しの場として、私たちの居場所は育ってきました。そして、子どもたちが土の中から宝物を見つけたように、嬉しそうに種から育てた野菜を収穫して、料理して食べて育っていきます。

2024年、私たちは大きな岐路に立ちました。活動の拠点としてきた地域サロン ito が、突然の契約終了を迎えたのです。不安と戸惑いの中、比嘉照夫先生の言葉が心に響きました。「ピンチこそが、チャンスになる」そして、その言葉通り、思いがけず私の故郷に新たな活動拠点が見つかりました。集落活動センターという、より広い舞台での再出発。寺子屋仲間たちとのカフェ運営という、新しい物語の始まりでした。

真夏の夕暮れ、寺子屋花火大会での「子ども縁日」は、私たちの新しい挑戦の象徴となりました。いつもは控えめなMちゃん、Uちゃんが、屋台の店主として堂々と声を上げる姿に、成長の確かな証を見た気がしました。お泊まり会やカフェでは、普段は学校に行けないAくんが、厨房で包丁を握り始めました。「野菜、切れるようになったんですよ」という誇らしげな表情に、私たちスタッフも思わず目を潤ませました。

寺子屋夏祭り、親子ハロウィンパーティー、クリスマス会と、季節の行事を重ねるごとに、子どもたちの表情が豊かになっていきます。特に印象的だったのは、年末の餅つき大会。杵を持つ子どもたち、経験豊富な地域のお年寄り、見守る親たちが、蒸したての餅の香りと共に輪になって語り合う光景でした。「親子喧嘩して、もう限界かと思った日も、ここに来ると不思議と心が落ち着くんです」と寺子屋カフェで打ちあける母親や、不登校や発達障がいのお子どもたち、目が離せない幼い子を持つ親御さんたちなど誰もが安心して過ごせる場所を作りたい—その思いは、EMの力とともに着実に実を結んでいきました。振り返れば、この3年間はEMと共に歩んだ軌跡でした。1年目、助成金で建てたプレハブ倉庫にEM団子を並べた日から、すべてが始まりました。2年目には高知市の介護予防事業に参加し、自然栽培の野菜が地域の方々から予想以上の反響を呼びました。そして3年目の今年、合計260名もの参加者を集めた雑草を味方にする微生物自然栽培講演会は、私たちの活動の大きな転換点となりました。ランチ付き寺子屋では、EMで育てた野菜を使った料理を提供しています。味噌づくりワークショップでは、普段は落ち着きのないう子が真剣なまなざしで大豆をつぶし、米粉パン教室では、人見知りの子が誇らしげに自分の作ったパンを見せに来ます。

冬のEM石鹸づくり、餅つき大会では、3歳のMくんが、小中学生と戯れながら自慢げにプリン石鹸を見せる姿も、おばあちゃんたちとも世代を超えた交流が、自然と生まれています。そして今、新しい拠点で、また新たな夢が芽吹き始めています。プランターから始まった家庭菜園が地域に広がり、EM石鹸作りが日常となり、子どもたちが土と触れ合いながら生きる力を育



んでいく。この3年間の助成は、希望の種を植え、EMの力で育て、そして実りへと導く、かけがえのない機会となりました。

これからも私たちは、EMの優しい力と共に、「ピンチをチャンスに」変える物語を紡ぎ続けていきます。

一つひとつの活動が、子どもたちの、そして参加するすべての人の心に、確かな糧となっていくことを信じています。最後になりましたが、3年間の助成により、私たちの活動は確実に根を張り、実を結びつつあります。物心両面でのご支援に、心より感謝申し上げます。EMの力で、これからも「ピンチをチャンスに」変え続けていきたいと思いをします。

「EMグラビトン農法による稲の多年草化栽培と限界集落の活性化」

ユニバーサルビレッジ七宗 代表 岡村志保

ユニバーサルビレッジ七宗での活動を始めて2年目となりました。ご助言、応援、ありがとうございます。12年前、祖父が亡くなる日に田んぼ、茶畑、畑をお願いと言われ、農業初心者、遠方、知り合いがいない中、慣行栽培ではなく自然に育てたいと思っていたところ、EMを活用する方法を知り、愛媛県のU-net 理事でもある野本さんの元へと通いました。また、地元のEM仲間たちと学び実践を積み重ね、何とか2年間活動を行うことができました。感謝でいっぱいです。これまでの2年間の活動を報告したいと思います。

1年目の稲作活動は、用水路を掘り起こすことから始まり、全てのことが初めて尽くして課題がたくさん残りました。水が冷たく雨が多いため、いもち病になってしまいました。草もたくさん生えてしまい、1.5反から40キロという寂しい収量となりました。しかし、結界をしたところ、獣害被害が多い地区ですが、被害から免れました。また、土が臭く稲も食べられなくなっていたそうですが、EMを毎週散布したおかげで、臭みは無くなりました。



地域活性化活動については、七宗には8軒の民家がありますが、これまで挨拶程度の関係で、親戚も年2回会う程度でした。そんな知り合いがいない中、孤独になるかなと思っていましたが、田んぼにいと近所の方が出てきて、稲作指導をしてくれました。親戚も頻繁に来てくれて、草刈りを手伝ってくれました。友達や仲間が年間で30名も手伝いに来てくれました。さらに、七宗でフリースクールを運営している方と意気投合して、七宗町のお役に立ちたいと、川の整備を一緒に行ったり、猪鍋を囲んで情報交換を行う事が出来ました。

2年目の稲作活動は、1年目の課題を生かし、水の冷たさに対しては入水口に大きなため池を掘り、そこにEM炭を投入し、波板で大きく迂回をさせることで水温を上げるよう対策しました。いもち病に対しては、毎週、EM3とEM7、ストチュウ、テラCを散布したところ、いもち病になりませんでした。雑草に対しては、1年目の秋起こしの後から、毎月EM1ぼかしを撒いて、EM炭を焼いて撒いたところ、水を張り出したら土がトロトロ層となり、雑草は少ししか生えませんでした。お米の収量は2反で200キロまで増えました。ただ、冬になると落ち葉が増え、水が少なくなってしまう、目標だった冬季灌水は今年もできませんでした。



地域活性化活動については、JAの方から声をかけて頂き、ふるさと祭りに出店させて頂きました。お祭りでは、米粉のおやつと、EM栽培の紹介をさせて頂いたところ、たくさんの方から質問を受けました。中でも、耕作放棄地がたくさんで困っている、活用方法は無いかの質問が多かったので、EMの紹介をしています。また、新規で自然栽培で稲作を始めた方たちと知り合いになり、偶然にも籾摺り機を全員持っていなかったため、共同購入をして、籾摺りをする時に、お互いの情報交換、学習会をする籾摺りクラブを始めました。

2年目は他の活動として、茶畑と畑の活動を始めました。茶畑は約2反ありますが、ジャングル化しているため、草刈りから始めました。今後、結界設置、EM散布を行い、初夏には祖父母たちが行っていたように、

ほうじ茶として飲用したいと考えています。また、0.5反の畑も始めました。畑の周りは山に囲まれて日照時間が少なく、畑に向いていないと言われていたのですが、EMを活用すれば可能と考えています。特に周辺の山からの落ち葉が大量にあり、通常は燃やしてしまいましたが、私はほかしと混ぜて堆肥化したところ、ふかふかになったため、土と混ぜ、生ごみも一緒に堆肥化し畝づくりを始めました。

ユニバーサルビレッジモデルづくりプロジェクトでいただきました助成金は、機械修繕、稲づくり、EM活性液製造、交通費として使用させて頂きました。ありがとうございます。



目標で実施できなかったこととして、稲作では、冬季灌水からの稲の多年草化栽培を目指していましたが、用水路が落ち葉で詰まり、冬で水が少なくなるため、田んぼに水を貯める事が出来ず、実施できませんでした。

地域活性化活動としては、倒壊している家屋の撤去作業を行う予定でしたが、七宗に住んでいる方でお一人家屋の撤去作業に反対された方がいたため、実施できませんでしたので、まずは七宗の方々ともっと仲良くなろうと、七宗内の草刈りや用水路の掃除などを行っています。



2年目で実施できなかったことも踏まえて、3年目の目標として、稲作では、2反から収量400キロを目指し、冬季灌水からの稲の多年草化を目指します。また、2年目から始めた茶畑を整備していき、畑では落ち葉と生ごみを活用して栽培を始めます。七宗では、田んぼ、茶畑、畑の3本柱で活動を行いながら、地域交流の場、学びの場となれるよう整備していきます。

「つながり ひろがる UNIVERSAL VILLAGE にしおづくり」

UNIVERSAL VILLAGE にしお 代表 石川知恵

自然と調和した幸福度の高い社会づくりということで助成をいただきまして今年で2年目になります。ユニバーサルビレッジにしおの事業内容と、今年度の進捗状況、これからの目標についてご報告させていただきます。

愛知県、西尾市は三河湾沿岸部に位置しており、山あり海ありの豊かな自然と歴史のある街です。西尾はEMの活動が盛んな地域で、地域の強みは、三河湾沿岸部ですから、EM海水活性液を作ってふんだんに使うことができること、農業者、漁業者が多いということです。地域の課題としてはEMを活用する方の高齢化と、若い方へ伝わっていない、EMについての情報のアップデート不足という事があります。

そこで私たちは、地域でリーダーシップをとって課題解決をして行くために、地域全体のEMレベルアップ、最新のEM技術を活用して良質なEM海水活性液の利用、また学びあうコミュニティを作り、自然と調和した幸福度の高い社会づくりを目指しています。

目標としてはEMを活用し資源を地域循環させ、EMグラビトン農法を地域で推進し、限界突破的なEMのレベルアップを目指しています。二年目である今年、基礎固めとして、さまざまなイベントや活動で培ってきました、西尾市の皆さん、JA漁協さんなどの連携を大切にし、重点課題として次の3つの事を行いました。

プロジェクト目標 **つながり ひろがる UNIVERSAL VILLAGE にしおづくり**

- ・EM活用で資源の地域循環
 - ・青草堆肥、生ごみ堆肥、畝定枝を無煙炭化器で
- ・EMグラビトン農法を地域で推進
 - ・抹茶、いちご、なしなど収穫が盛ん、いのしし被害も
- ・地域の限界突破的なEMレベルアップ
 - ・多くの団体がEM活性液で環境浄化、EM農畜産物

愛知県
西尾市
人口17万人

6

一つ目に生ごみや水産廃棄物の堆肥事業化に向けて、先行事例を研究しました。3月に市内にある木材チップの工場を見学したところ、市内から集められている剪定枝などが木材チップ化されていましたが、利用場所は農業やバイオマス発電など限られている事を知り、堆肥化できなかと研究しています。7月末にはEM研究機構の吉川さんにアテンドいただき、堆肥事業化研究の研修として、岩手県花巻市の岩手コンポスト

さんと、ユニバーサルビレッジくりはらさんへ視察に行きました。岩手コンポストさんでは、生ごみの堆肥化の現場を視察でき、規模の大きさやEMを活用することで堆肥化の途中でも臭いがないことに驚き、菅原社長や菅原専務のお話を聞くことができ、とても勉強になりました。



ユニバーサルビレッジくりはらさんでは、勉強会にも伺わせていただいて、私たちの活動紹介や栗原の皆さんと意見交流をする機会を得る事ができました。栗原市のEMを活用している現場の視察することができ、代表の平野さんの美容院にも行かせていただきました。美容院の観葉植物が元気で、花も綺麗に年中咲いているということを知ることができましたし、とても気持ちの良い空間でした。また U-net の写真や映像でも何回も見てきましたが、震災の時に活躍したトラックも見せていただいて本当に感激でした。さらに、鈴木有機農園さんにも伺わせていただき、震災時に津波で海水が田んぼ一面に広がってしまったところの塩害対策にEMを活用した実証試験のことや、EMを活用した野菜作りや米作りへの思いを充分に聞かせていただき、大変学ばせていただきました。

二つ目に、会員間の学びの充実と連携の強化についてですが、毎月第3日曜日にEM勉強会、交流会という形で毎月20名から25名ほど集まって勉強会を実施しています。テキストとして使わせてもらっているのは健康生活宣言の内容だったり、毎月の比嘉先生が書いてくださるDND記事の最新情報などから、会員の中で疑問に思ったことをたくさんお話しして、勉強会の後には、お食事をしながら交流しメンバーのそれぞれの活動を報告し合ったり、分からないことを質問し合ったりして、とても素敵な会になっていると思います。



また、この中のメンバー4人が5ヶ所で、家庭でのEMの使い方セミナーや結界講座を行えるようになって、さらにEMの魅力が色々な層の方に広がっており、みんな楽しく一緒にできていることに感謝しています。隔月でEMめぐり会というのも始まっています。もともとは、三河湾浄化塾という三河知多半島でのEM活動をずっと行ってくれていた方々が、2003年ごろから活動報告や情報交換で集まっていたようなのですが、コロナの影響で会を閉じてしまう事になったとき、最後にありがとうさよなら会をするために皆さんが集まりました。私自身、皆さんにお会いし、EMについてたくさん教えていただいた先輩方や地域の皆さんとのご縁が今に繋がっていると実感し、どうしてもこの会を続けたいと思い、隔月でEMめぐり会として、メンバーの一人でもある方のお店を会場にして勉強会を実施しています。

さらに、愛知県半田のU-net 竹内理事も一緒になってくださり勉強会を行っています。勉強会では、EMの事を知っている方限定でさらにEMを知る会という事で、ユニバーサルビレッジ国際会議の情報のシェア、EM・X GOLD、光合成細菌についても学びなおして理解を深めていく会も行っています。

勉強会以外にも、会員間の学びの充実のためEMグラビトン農法の実践も始めています。会員の一人である、はさだ梨農園では2020年からEMで整流結界を始めており、定期的に結界のメンテナンスを行う時に、会員さんやEMグラビトン農法に興味のある方が農園に来て一緒に行う事によってよい学びの場になっています。今回は梨園の圃場に直径25cm深さ50cmの穴を掘り、梨園で冬の間に出た剪定枝を無煙炭化機で焼いたEM整流炭を、ボカシと海水活性液と一緒に穴に入れました。このような穴を圃場の周辺にぐるりと7-8m間隔で設置して、梨の木と木の間にも7-8mごとに設置しました。このような作業の合間にしっかり休憩しながら技術の解説や情報交換をしています。はさだ梨園では、今年、夏の前に雨が降らない時期があり、周りの農家さんでは梨が不作だったなか、例年と変わらない収量と美味しさを保っていましたので、毎回、販売開始後すぐに売り切れになるほど皆さんが買いきてくれ、本当にEMのおかげだなとお話されていました。



会員のイチゴ農家である石川さんのところでは、6月初旬に他のハウスが高温で病気が増えるなか、EM結界を張ったハウスで最後まで病気がなく、元気で美味しいイチゴを収穫し続けることができました。次の作付けのために切ったイチゴの株を70ℓほどのタンクの中に詰めてEM活性液を入れ、蓋をして3週間ほど発酵させてEM青草堆肥を作っています。EM青草堆肥は作付けの苗の上に乗せて、夏はラップをし、少し発酵させますが、土の入れ替えなしの不耕起で苗を植えました。苗にはEM活性液をかけ、ハウス内の結界、ハウスの外側にも結界をしています。無農薬栽培を目指して3年目のこの1月に入り、イチゴの収穫が今年も増えてきています。1年目、2年目とこれまで直売のみで販売していたEM無農薬イチゴだったのですが、今年は販路拡大を目指して地元の産直にも出そうということで動いているところです。

初年度からやっていた青パパイアですが、今までは化学肥料をたくさん使った畑でカチカチの栄養がないような土だったのですが、だんだん土が良くなってきています。今年は両手からはみ出るほどの青パパイアを7個収穫できました。パパイアの間に入れていたカボチャもゴロゴロと草むらの中でたくさんできていて、大変美味しくいただきました。今後は、パパイアの畑のまわりも耕作放棄地だったところなので、活用法について考えていきたいと思えます。これからEMグラビトン農法の実践として推進して行くものとして、お米、麦、大豆、抹茶を考えています。地域の農家さんの中に私たちの活動に賛同してくれ、EMやりたいというお話があるので、一緒に行っていければと思います。

三つ目の地域へのEM活動についてご報告します。7月6日に中学校のボランティア部の子供たちとEM団子を作成し、出来上がった団子を緑川クリーン作戦として河川浄化のために活用しています。この緑川クリーン作戦には、西尾市長や県会議員、市議会議員、環境部長が川にEMを流したり、中学生高校生の地元ボランティアの方の協力を得てEM団子を投入しました。この活動は、世界EM団子デーにビデオ参加することができました。

また、今年、小学校のプール掃除で困っているというお声をいただき、私たちも何かできないかということで小学校のプールにEMを投入しました。5月とプールが終わった10月にEM活性液をプールに投入したところ、プール掃除が予想をはるかに超えて楽だったということで、学校の皆さんに喜んでいただきました。これが上手に続いていけるように学校の子供達と一緒に環境学習も含めて実施できればとお話をしているところです。

5月には、半田の竹内さんのご自宅近くの小学校で毎年EM団子作りをしているということで、私たちユニバーサルビレッジにしおのメンバーも勉強のためとお手伝いで参加させていただきました。子供たちと一緒に自分たちの住む地域の川をきれいになりたいと真剣にEM団子を作っていました。

また、7月には、三河湾の見晴らしがよい美川温泉ホテルの浄化槽が経年劣化により臭いが出てしまっているのので、地元の飲食店組合さんから海をきれいになりたいと同意をいただいて、EM活性液を浄化槽に入れ始めました。EM活性液を運ぶ軽トラックは助成で買わせていただいたもので、プール清掃の時などEM活性液を運ぶのに大変重宝しております。ありがとうございます。この浄化槽は、7月からEM活性液を



毎週200L 入れるようになってから臭いが改善されてきています。その結果をみて、今度は隣のピザ屋さんから駐車場にあるマンホールから臭いが出てしまって、車を停めて、ピザ食べて帰ってくると車の中が臭うぐらいひどいという事だったので、調理場のところからEMを毎週流していただくようお願いしたところ、すぐに臭いが消えたということで大変喜んでいただきました。

12月6日には、西尾市に愛知県唯一の屋外リンクが12月から2ヶ月限定でできるのですが、その際、地球トイレプロジェクトということで仮設トイレにEMを提供しました。

去年から今年の中で大きな活動の一つとして、「夢見る給食」という映画の上映会と、西尾の農トークというイベントを企画しました。1月にJAさんを招いてイベントをした際に面白い話が聞けたので、皆さんにももっと知ってほしいと思い、農トークを開催するに至りました。イベントでは、JA西三河の営農部長の太田さんと、JAのコメ麦大豆部会部会長の小野田さんと私の3人でトークセッションをし、トークの中では、西尾小麦が単位収量あたりでいえば、北海道抜いて三年連続日本一になっていることや、除草剤を使っていないだとか、減農薬のお米を20年前から作っているとか、意外と西尾市ってとてもいろんな心のある生産者さんが多いということを知ることができました。当日は市の産業部長や農水振興課さん、学校給食担当栄養教諭さんとも来てくださって、市の皆さまに私たちのEMの活動を知ってもらい、これから何ができるのか一緒に考える事ができましたし、イベントの後には市民活動センターの講師や、市から依頼を受けて講座をいくつか行う事が出来、注目していただいて、開催して良かったなと思っています。

12月1日には、市が行っている環境ウェブというイベントにも参加し、いろんな県議さんだったり国会議員さんだったり、いろんな方へ私たちの活動を紹介させていただいています。11月28日には、市のSDGsパートナーに登録させていただいて市内の事業者さんとも連携をするということになり、このSDGs登録パートナーのつながりで西尾市畜産振興会の会長さんのところとも交流をさせていただき、EMで臭気の問題、畜産関連の病気の問題などがあるので今後連携していけたらいいなというふうに考えています。



ユニバーサルビレッジにしおでは、これまで本体の活動としてやっていた事をメンバーの皆さんがそれぞれ、自主的にEM活動を行うようになってきました。小学校のトイレを運動会前にきれいにしたいので、EMを活用してトイレ清掃したり、ゴミ集積場に結界を設置してカラスに荒らされないように実験をしてみたり、楽しんで活動をしています。その他にも子ども食堂や飲食店の生ごみを一部回収したり、お寺の刈草を回収して堆肥化する活動も行ってきました。

3年目の活動としては、私たちの地域でEMを社会化し、誰でも簡単に使える色んな活用法の知恵を広げていきたいと思い、いろんな方と情報交換をしたり、専門のEM勉強会を開催して行きたいと考えています。最新情報を伝えて、それぞれEM使っている方もいらっしゃるのので、スキルアップしてつながっていくと、より活動が楽しめるのではないかと思います。そして、SDGsパートナー登録したことで、いろんな繋がりができました。講座の依頼されることも増えてきたので、そちらの方も大切にしてゆきながら、市政への提案もさせていただこうと思っています。目指す姿は、自然と調和した幸福度の高い社会づくりで西尾市内が各地で結界を張った畑や家が増え大結界が出来て、そして、また良質なEM海水活性液ふんだんに使って、自然と調和した幸福度の高い社会づくりができるというふうに確信しています。このプロジェクトを行っていくうえで、本当にたくさんの方と関わっていただいて、そして全国からも応援をいただいて本当に恵まれた環境であることを再確認させていただきました。私たちが実践してまたつながっていくことで皆さんのモデルになれるように、わくわく楽しく活動進めてまいりたいと思います。今後ともご指導、応援をお願いいたします。



「ユニバーサルビレッジ岩手」

ユニバーサルビレッジ岩手 代表 高橋比奈子

令和7年より、ユニバーサルビレッジモデルづくりプロジェクトに参加いたします、ユニバーサルビレッジ岩手の代表、高橋比奈子です。私たちのプロジェクトについてご紹介します。

私がEMIに出会ったのは平成6年、都道府県の中でEMの講演会を開催していないのが、岩手県だけだというお話から岩手コンポスト株式会社の菅原専務が中心となり、実行委員会形式で比嘉先生の講演会が行われましたことに始まります。それから、U-net岩手などを立ち上げ、当時は、EMを使った学校のプール清掃が盛岡市内だけでも約40校あり、EMIによる農作物の害虫対策なども行っていました。実際に岩手コンポストさんと協力して無農薬でお米を作りたいという事で、平成6年から17年間稲作をすることができ、周りがどんなに冷害を受けてもEMの田んぼは8俵の収穫できるという体験もすることができました。また、EMを使った廃油石鹸作りなど、多くの活動をEM研究機構の方々のサポートも得ながら行っていました。現在でも、EMIに取り組んでいる人たちはたくさんいますが、それぞれ独自に活動し、情報交換会などは行っていないという状況でした。

そのようななか、昨年7月21日にEM研究機構の浅見さんが岩手へ来県したのをきっかけに、久しぶりに以前から活動していた仲間たちが集まりました。集まった際に、以前のように情報が欲しい、後継者を育てて欲しい、活動の核となる場所があればいいなと出席者から要望がありました。それが今回のプロジェクトに応募する大きなきっかけとなりました。

ユニバーサルビレッジ岩手の目標は、これまでEMIに取り組んできた専業農家さん達にEMの最新技術であるEMグラビトン農法を取り入れてもらうと言うものです。岩手県にはEM堆肥やEMグラビトン炭を作っている岩手コンポストさんがいらっしゃいますので、岩手から世界に発信するお手伝いをしたい、地球にも身体にもいい農産物を専業農家が作るモデルとして発信したいと、今回のプロジェクトについてお話をし、一緒にどうですかとお声かけをしたところを、皆さんやる気満々でご参加いただけることになりました。

次に今回のプロジェクトで、EMグラビトン農法に取り組んでくれる協力農家さんをご紹介します。紫波町の武田さんはお米を450a、畑は30aでアスパラ、ナス、小松菜、トマトなどの栽培をされています。以前、ユリの連作障害に困っている時にEMIに出会い、それからずっとEM農法に取り組んでくださっている方です。武田さんのお米は冷めても美味しいと、EMのホテルでも評判です。

八幡平市の外山さんは、ひまわりガーデンでミニトマトを栽培されています。トマトはEMのホテルでも販売していますし、他にもホウレンソウなど美味しい野菜を栽培されています。



北上市の高橋さんは、去年まで三重県でお仕事されていたのですが、以前から毎年EM石鹸作りの活動をずっとサポートされてきた方です。岩手に戻って来られてから、家の農業を継ぐという事で、今回グラビトン農法を取り入れてくださることになりました。最後に一関市の三浦さんですが、合鴨農法を併用した栽培で30年、EMを活用した農業をされています。



このように、EMを知り尽くしている専門農家が最新EM技術を活用したグラビトン農法を広げていき、岩手県から情報を発信していきたいと思っております。今後の発信に乞うご期待下さい。

「講評」

U-net 理事長 比嘉 照夫

本日の皆さんの活動がそれぞれに進化して、発展している状況をご報告いただき、とても楽しみながら視聴していました。私からコメントの必要がないくらい、皆さんがEMの情報を使いこなせるようになってきています。このように、皆さんがユニバーサルビレッジを目指して推進して行けば、素晴らしい成果が出ると確信できました。

杉本先生のプロジェクトは、着々と進んでおり、従来のEM普及活動だけではなく、医学等の新しい分野を含めた活動となっています。当会の活動では、EM技術を活用した「病気になるない生き方」を提唱していますが、杉本先生のように現役の医師が農園を運営しながら普及していることで大きな影響力が生まれます。また、様々なグループと協力し、社会的つながりを構築しています。すなわち、社会全体を巻き込みながら「病気になるない生き方」を目指す情報集約を始めています。更に、EMの量子力学的技術を発展させ、整流技術を導入してMRI等の機器の活用を進めています。EMIによる放射能汚染対策の実証例の応用で、Oリングの専門家の協力も得ながら、クリニックの節電等にも成果を上げています。先日、杉本先生が沖縄に来られた際に相談があったのですが、整流技術の応用が医療分野や人間の健康に貢献できるのではないかと、ある意味で医学の本質的な革命につながる、そのような本の執筆に取り組まれています。

土居さんの報告ですが、窮地に追い込まれ時に発揮される現場力やEM力があれば、地域を取り込んで再挑戦できる実力があります。土居さんも自信を付け、EMのレベルが上がり、社会を変えてしまう勢いが感じとれます。今後は地域全体が協力しながら、土居さんのEM活動が維持、強化され、新しいことも取り入れながら発展することができると期待しています。これまでは、地域の方にEMを理解させるのが大変でしたが、今では地域で何か課題が出てくると土居さんに相談しようと、地域になくてもならない活動となっています。更に情報をハイレベルにして行くことで、地域全体がユニバーサルビレッジとして機能するようになります。

岡村さんの取組みですが、実は昨年を報告を視聴したところでは、音を上げるのではないかと心配していましたが、今日の報告を受け、とうとう岡村さんの活動が七宗全体の潜在力を引き上げたということが分かりました。これは、皆が世の中を、地域を良くしたいと思っているが、核となるモノがなかなか育たないという現実がありますが、岡村さんの志と実行力が核となって周囲の皆さんの気持ちが共鳴・集約したことで七宗の皆さんも動き出し、EMの理解も高まりました。お米作りでEMを活用し、イモチ病が消えたとかトロ口層ができ雑草対策が出来た等、実際に体験して、実行できるぞとの意識が変わっています。また、お米の増収やお茶の栽培にも取り組む等、EMを通して農業を楽に楽しく、そして新しい価値を生み出して行くというレベルに達しています。今後は農協や公の立場からの協力が得られれば、この活動が社会化することになり、EMによる地域活性化のモデルとして機能するようになることを期待しています。

次に石川さん達、ユニバーサルビレッジにしおの活動はとても楽しいです。西尾市は元々EMが盛んな地域ですが、情報が古いままで止まってしまっていました。しかし、石川さんたちが新しい情報を提供することで、再びEMを使っている皆さんが活発に動き出しました。衛生組合や漁協、農業団体も協力し、市役所の方にEM活用の提案ができるような流れもできて来ました。EM活動がSDGsの本領的な機能であることを証明することになっています。この活動で重要なポイントは、海水でEM活性液を作成して使っていることが上げられます。塩を活用することで、EMが変質せず、高品質なEM活性液が使えますので、あらゆる場面で成果があがり、失敗することはありません。言わば、連戦連勝なので、この実績を積み重ねることで更なる自信に繋がります。また、EMの整流結界を設置していることで、エネルギーが集約され着実な成果となっていますが、整流結界を年に数回EM・X GOLDやEMグラビトロン炭、塩できちんと管理して水準を維持することがポイントです。その上でEM活用を繰り返すことで、奇蹟的な効果が発現しますが、EMは使う人次第ですので、自己責任と社会貢献認識を前提に繰り返し活用し、重ねることが重要です。

最後に、昨年のユニバーサルビレッジモデルづくりプロジェクト追加募集に採択されたユニバーサルビレッジ岩手ですが、岩手県内でEMを良く知っているプロの農家や岩手コンポストをつなぎ、プロフェッショナルな成果を社会に示し、地域連携のなかの新しい農業のあり方を社会に示すという可能性を含んでいます。今回、紹介のあった5件の農家は、すべてプロフェッショナルですが、その農家がEM整流結界に本気で取り組み、岩手コンポストのEM堆肥を活用し、大規模なEM農業のモデルとして発展させられる可能性があります。そのうえ、農産物の加工にも取り組むことで、更なる成果が生まれてくると感じさせていただきました。

最新のEM情報を集約し、質の良いEM活性液を作成して使うことで、失敗することはありません。EMは生物ですので、扱う人の力量次第です。油断せずにEMの働きをケアし、重ねる(繰り返し使う)ことが重要で、高度な情報共有社会が実現できます。

世界中でEMは活用されていますが、日本が遅れをとっているのが現状です。今回発表いただいた皆さんは、EMの実力者となってきていますので、EMで物事をポジティブに解決できるようになっています。しっかりと自分自身の成果を持っており、どんなネガティブ情報にも臆せずに対応することができています。すなわち、EM実力者の資質が上がってきている証拠です。EMユニバーサルビレッジモデルづくりに取り組まれている皆さんは、EMで成果がでることは当たり前であり、様々な問題解決への提案型となっています。EMを使うことで、自分自身の人生もそうですが、社会も豊かにしますので、最先端の情報を取り入れて活動していただきたいと思います。特にEMの量子力学的機能は、鳥獣害対策のみならず、自然災害対策に活用されていますので、上手に整流結界の技術を取り入れていただき、チャレンジしていただきたいと思います。

★令和7年第1回EM技術セミナーダイジェスト版 動画視聴のご案内 (会員限定)

1月17日に開催されました第1回EM技術セミナーでの発表をまとめたダイジェスト版動画を配信します。配信期間中はインターネットに繋がるパソコン、スマホがあれば、好きな時間にダイジェスト版動画を視聴できます。

【配信期間】 3月28日(金)の朝9時～3月31日(月)の夜9時まで

視聴をご希望される会員の方は**3月24日(月)**までにお名前と、「ダイジェスト版視聴希望」と標題に明記の上、事務局(info@unet.or.jp)へメールにてご連絡ください。

視聴用 URL は3月27日(木)に事務局よりメールにてお知らせいたします。

「量子の目からEMを理解する 第4回」

諏訪東京理科大学元教授・工学博士 奈良 松範

はじめに

あなたは植物に話しかけたことはありますか？

前回話題にした農地における地力の衰えや人の認知症などは、そこにゴミが溜まってしまうことが原因だった。しかし、新しい農地であっても作物がうまくできない場合もあり、若い人でも脳の機能に問題が生じている場合もある。これは明らかに、そこにゴミが溜まったわけではなく、その環境や機能などに問題が生じているからにちがいない。

私たちは一人で生きていくわけではなく、自分が置かれた環境の中で周りから様々な情報を得て、生活をしている。怖いものがあれば避ける、面白そうなものがあれば、寄っていく、辛いことがあればふさぎ込む。

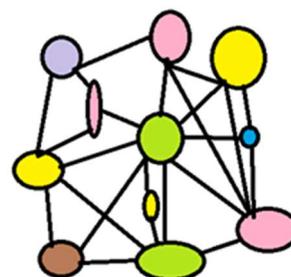
農地でも同様に、植物だけで生きていくわけではなく、土や水、そして養分などの周囲の環境の影響を受けて育っている。雑草が蔓延すれば負けてしまい、水を与えてもらえなければ枯れてしまい、栄養が不足しても枯れてしまう。これらはすべて環境である。環境を知ることは生きることである。植物は環境の変化をどのように感じ、また伝えているのであろうか、人間であれば五感という知覚と神経がある、言葉や身振り手振りがある、しかし植物はどうしているのだろうか。

そんな疑問から、植物が環境を感じて、これを伝えている様子を実際に測定してみることにした。



植物は知っていた

植物は自分が置かれた環境をどのように見聞きしているのであろうか、目もなければ、耳もない、しかし環境の変化を何らかの方法で感知しているにちがいない。いや、結果だけが重要であって、何も感知していないという意見もあろう。例えば、干ばつで水がないことを根は知っているが、土の外にいる葉は知らない、葉は何も知らずに枯れるだけなのだろうか。あるいは、葉は水がないぞという連絡をリアルタイムで受けているのだろうか。もちろん人間であれば、手足が知覚した環境の変化に関する情報は即座に神経を伝わり、脊髄や脳に送られて、全身に適切な反応を起こさせることになる。しかし、植物には葉や根を自由自在に動かすための神経や筋肉はないように見える。しかし、オジギソウは、ある程度の強い刺激を感じると、葉枕という運動器官を曲げて葉をスピーディーに閉じる。そのメカニズムは、傷ついた部位から Ca^{2+} シグナルと電気シグナルの両方のシグナルが発生し、葉脈などを介して全身にすばやく伝播することが分かっている。植物にも感覚があり、神経を持っているようにも思える。



そこで植物において情報が伝達されているのか、あるいはどのように伝達されているのか、簡単な実験を試みた。地面から根ごと引き抜いてきた雑草を使って、枯れ行く植物に対して水やEMを与えた場合の反応について調べた。根付きの雑草を空気中に放置した後、水中に浸漬し、さらに水中にEMを添加した場合の3つの環境における電位変化を測定したわけである。根における環境変化を茎が感知しているのか。茎は根の部分の環境変化には、さらされていない点に注意してほしい。

その結果、面白いことがわかった、植物には神経という構造(組織)は存在しないが、情報はきちんと伝達されていた。動物と同じような神経線維は存在しないが、神経と同様に電気信号を伝達することにより情報が伝わっていた。

図1に示したように、直流電圧の測定結果を見てみると、空気中から水中に根の環境が変化したとき、茎において明らかに直流電圧の変化が測定された。この変化を感知していたのだ。

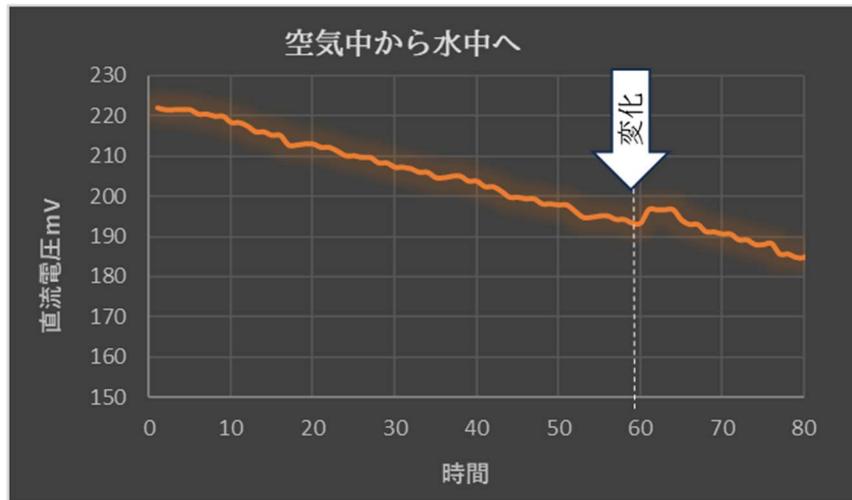


図 1. 環境変化を受けた場合の茎部での直流電位変化
空気中から水中への移動(変化点は環境の変化を導入した時点を示す)

カルシウムイオンが植物細胞を伝わって移動するとい報告がある。この移動に伴い電位が発生したので、これが茎の表面において測定されたものであろう。茎の表面における電位変化は、植物も神経らしき機能を持っていることを示しているのではないだろうか。

植物は聴いていた

この実験で不思議でもあるし、面白くもある新しい現象が見出された。これは量子力学的な現象と関連している可能性が高い。動物には地震を予知する能力があるという報告がたくさん存在する。動物たちは震度計で揺れが実際に計測されるより前に、何かを感じ取っていたという事実を報告している。

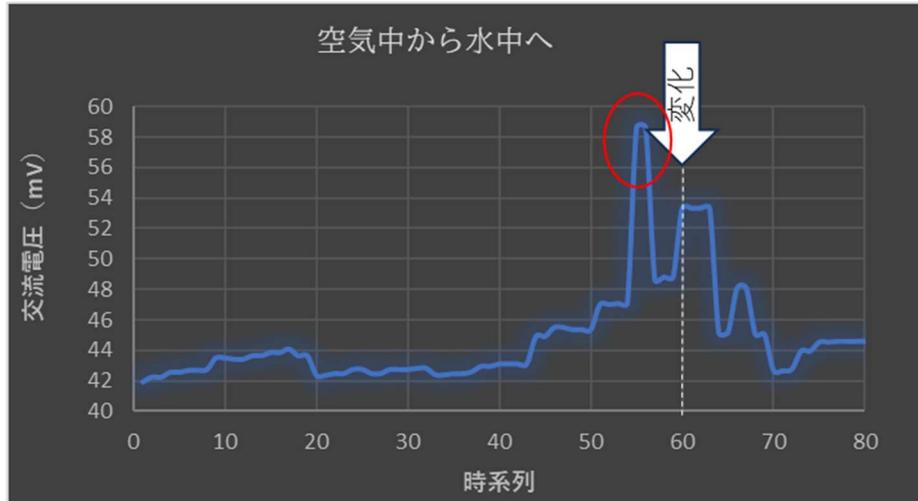
例えば、1976年に中国で発生した唐山地震の前には、2,000を超える動物の異常行動が報告され、犬が狂暴化し、ネズミが電線を渡って逃げていく様子が写真撮影されている。ドイツ、マックスプランク動物行動研究所の研究者によって学術雑誌「Ethology」に掲載された報告によれば、オカルト情報を元に、これまでの地震で異常行動をみせたと言われた13匹の動物(牛6頭・羊5頭・犬2匹)の首輪に加速度計を取り付け、地震多発地帯と言われるイタリア中部で数か月に渡る観察を実施したらしい。測定期間中、イタリアのこの地方では18,000件の地震が計測されていた、そのうち震度4以上の強度は12回あった。観察していたすべての動物が地震予知の行動を示し、震源地に近いほど異常行動があらわれる時間が早かったらしい。予知のメカニズムは、地震発生地点では地殻や地層の歪みが、地震発生前にも熱(特に赤外線)に変換され、動物たちは大地から発する赤外線の変化を感じているのではないかと考えられている。確かに、磁場や赤外線といった人間には感じられない情報を感じ取る生物は少なくない。しかし、これが予知の本体なのか、不明である。

以上のように、動物における予知の研究は多いが、植物の予知能力についての研究はほとんどない。そこで植物には神経があるのかという疑問に続き、植物に予知能力はあるのかについて考えてみたい。

前述と同様に、根と共に引き抜いてきた雑草を使って、簡単な実験を行った。ご存じのように、量子は粒子でもあり、また振動でもある。振動ということは電流でいえば交流を意味する。この実験では、直流ではなく交流の電位を測定したところがポイントになる。

図2は環境が空気中の状態から水中の状態に変化した場合の交流電圧を示した。変化点とは根が水中に浸漬された時点である。面白いのは、直流電圧は浸漬と同時に電位が高くなったのに対して、交流電圧は浸漬される前に電位が高くなっているという点である。環境の変化を感知して電流が流れるのはわかるが、感知する前に交流電流が流れている。変化を受ける前に何か感知している、これは一体どういうことだろうか。

図2. 環境変化を受けた場合の茎部での交流電位変化

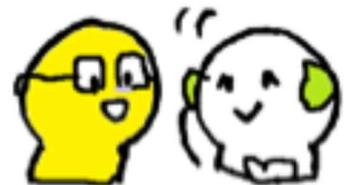


空気中から水中への移動(変化点は環境の変化を導入した時点を示す)

ここで考えられる一つに仮説として、刺激を与えようとしている人間の意識を感じ取っていたということ。水を注ぎ込む時点を決め、これから水を注ぎこもうとして、意識を集中している、その時の意識が植物に伝わったということは考えられないだろうか。

植物に話しかけたことはありますか、真摯な気持ちで植物に声をかけると植物もこれに対応してくれたことはありますか。

量子力学には量子エンタングルメントという現象が存在することが証明されています。例えば、対になった電子のスピンの情報はどんなに遠く離れていても通じ合っているというものです。宇宙の始まりは無(一点)から始まり、現在の複雑な空間にまで拡大したわけだから、すべての量子はエンタングルメントしていると考えてもおかしくない。



人も植物も石も、すべてのものが量子レベルで繋がっている。量子エンタングルメントは量子の領域の現象なので、私たちの生活するノイズの多い空間では確認することはできない。しかし、コヒレンスという状態を生み出すことができれば、量子エンタングルメントはマクロな世界でも発生するにちがいない。私たちが意識を集中して、無の精神状態に近くなったとき、ノイズがないコヒレンスな環境が現出して、量子エンタングルメントによる情報の伝達が可能となる。これはテレパシーと呼ばれている超常現象に似ているかもしれない。

まとめ

植物は自分の周りの環境を感じ取っており、その情報を伝えるために神経らしき機能を持っていることがわかった。さらに植物は人の気持ちを読み取っているのではないか、というところまで考えた。EMの役割の一つは、このノイズの溢れる世界において、ノイズのきわめて少ないコヒレンス環境を創り出すことだろう、これが様々な効果あるいは現象を生み出しているにちがいない。

生物はお互いにコミュニケーションをとることができる、種が異なれば、言葉は通じないが、心という無形のコミュニケーションは通じると考えている。心が話す言葉は、量子エンタングルメントによる情報の伝達にちがいない。すべての生物はお互いにコミュニケーションするための道具を持っているのだ。

事務局からのお知らせ

■令和7年第1回理事会及び第26回通常総会のお知らせ

2月27日に沖縄県で開催される令和7年第1回理事会の案内を理事の方々に、第26回通常総会の案内を正会員の方々に郵送しました。正会員の方で、まだ事務局より通常総会の案内文書を受け取っておられない会員の方が、もしおられましたら、事務局までご連絡ください。

本会の事業年度は1月始まり12月終わりですので、昨年12月31日時点で正会員であった方は第26回通常総会に参加する資格があります。

★令和7年第2回EM技術セミナー開催のお知らせ(会員限定)

令和7年第2回EM技術セミナーを令和7年4月25日(金) 14時～16時に開催します。

セミナーへの参加申込は令和7年3月3日(月)から当会のホームページ(<http://www.unet.or.jp/>)のインフォメーション欄から受付を開始しておりますので、お申込み専用ページからウェビナー登録いただきますよう、お願い申し上げます。**お申込みの締め切りは令和7年4月24日(木)**です。

なお、セミナーのプログラムにつきましては、後日、当会のホームページでお知らせします。

※令和7年第2回EM技術セミナーはU-net会員様限定の配信となっております。

ウェビナー登録時、ご記入いただくお名前と会員様のお名前が違う場合、参加登録が出来ない事がございますので、ご注意ください。また、グループ、法人会員の皆様は、氏名に加えて、所属するグループ名または法人名を記載いただきます様、お願い申し上げます。例) 姓 名
ウェビナー登録についてご不明な点がございましたら、U-net事務局にお問い合わせ下さい。

問い合わせ先 EMail:info@UNET.or.jp 電話番号:098-923-2600

EMニュース

NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」で、EMを活用されている米農家の関さんの取り組みが昨年11月27日に紹介されました。



「幻の米がある。世界一を6度受賞し、通常の3倍以上の値をつけながら、その味を求め世界中から客が訪れる。生み出したのは関智晴。プロスノーボーダーとして活躍した異色の経歴を持ち、農家の長男に生まれながら農業に背を向け続けた過去。「いちばんやりたくない職業が農業だった」と語る男が、今農業にかける理由。米不足や温暖化、取り巻く状況が激変する中、「農業こそ最強」と言い切る農家の青き革命。」

本放送を視聴されたい方は NHK オンデマンドなどでご覧になれます。

<https://www.nhk.jp/p/professional/ts/8X88ZVMGV5/episode/te/9RX3K582RN/> より引用、転載